

東京日々新聞

八百六拾五號

日向国高千穂山の
神代の古蹟あり。此山中の
高千穂村の素より頑固土地
ゆて人の心も直からず米さへ
あて常々食ふ物
粟稗のまゝよし其村内の農民ふ
儀太郎と呼者あり。妻の過一日世と去
てて独り詭々々々。又此近傍へ折々
来て古交商ひあり。儀太郎兼て知己あり
る。明治七年四月の下旬或日晚景彼の女
風来て泊り
を依頼し
心能承知て其夜女と殺害
所持の金銭品物と
奪取ども四隣さへ
遠く離れ一軒家
誰知る人もあり。

千穂村農儀太郎

萬
分
幾
許

實にちよき人心
無慙といふ愚者。夫より半月余もして此村内の
飼犬の首を噛み来て人々驚き其所此所と珍索
あせし儀太郎の屍の後に見馴る女の死骸を荒掘り。

温克龍吟誌

墨陀西洋
事ここぞ
天此天とて此徒が隠忍と。亮然
うらやみの怒り又尊榮べき
事ここぞ
包みてあり一
見出て俄に懸懸へ
訴へるさへ即時儀太郎ハ
拘縛ぬ嗚呼我神國の魂うや
天此天とて此徒が隠忍と。亮然

人
見
之
形

彫
春